柏学園　うんどうかい

法人合同行事　球技大会

瀬野三施設　もちつき

瀬野三施設　クリスマス会

柏学園　クリスマス会

柏の実苑　年忘れクリスマス会

柏の芽

発行所
社会福祉法人
柏　学　園
広島県安芸郡府中町
青崎東7-12
TEL (082) 282-6500
発行人　米川　晃
印刷所
株式会社　中本本店
TEL (082) 221-9181

迎春

謹んで初春の
お慶びを申し上げます

新型コロナウイルス感染症により、一昨年、昨年と社会生活をはじめ、障害福祉の現場でも多くの影響が出ています。集団生活、対面での語り合いや遊びが大切なこの時期に、感染症対策で隣との間隔の確保や、集団で過ごす事への配慮や対策が必要になっています。また、保護者の皆様には、参観や面会等を通して、お子様の成長や日常生活の様子を見て頂きたいと思っていますが、多人数の集まりにも対策や工夫が必要です。昨年は、皆様に、体調管理の御協力を頂きながら、日常生活や日中支援、療育活動を行ってきましたが、今後も感染症対策と併行して、日々の活動を工夫し、すすめていくつもりです。

皆様のこの佳き一年が、健やかで幸せな寅年となりますようお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願いします。

令和四年　初春

社会福祉法人柏学園
理事長　米川　晃

幼児発達支援センター
柏　学　園
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

主に就学までの子どもたちが通って来ています。子どもたち一人一人の気持ちと発達段階を充分に理解し、ご家族の方々との話し合いを大切にし、親子共々希望と元気が出る療育を目指しています。

新年を迎えて

柏学園長　林　しのぶ

新年明けましておめでとうございます。長引く新型コロナ感染症対策に合わせて、今できる最良の方法を考え、日々の療育を大切にしてきたつもりですが、ご利用の皆様には様々なご協力をお願いすることになり、本当に申し訳なく思っています。今後まだまだ先が見えない状況ですが、「振り返った時に後悔のない最善の決断と方法」を考え、皆様が安心してご利用いただけるようにと思っています。

柏学園では、毎日13時半になると「おやつ、ください」という声が聞こえ（背の低いお子さんは職員室のガラス越しには姿が見えませんが）、職員室におやつ当番さんがやってきます。回を重ねるごとに、大きな声で言うことができるようになり、「なにぐみさんですか？」の問いにも答えてくれるようになっていきます。〝自分が、自分が〟と先走っていたお子さんが、お友達と一緒に声を揃えて言うことができるようになっていきます。自分の役割を果たし、満足そうにおやつ袋を持って帰るうしろ姿は頼もしい限りです。日々繰り返される日常の中で、子どもたちの達成感や満足感、誉められ認められたという喜び、思い通りにいかなかった時の腹立たしさや悔しい気持ち、子どもたちの様々な思いや気持ちを感じさせてもらえることに感動そして感謝しながら、寅年の今年も共感していくことを大切にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

障害者生活支援事業
柏の実苑
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

19才から64才までの知的な発達に障害のある方達が、社会参加や自己実現を目指して家庭から通い、職業指導・生活援助を通して日中活動の場を提供しています。

一期多笑

柏の実苑長　角田　芳郎

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申しあげます。

さて先日、新聞で「一期二会」という言葉を目にしました。「この出会いを最後と思って大切にしようというのが一期一会。この考えも好きだけど、また会いたいなという出会いを増やしたいのが一期二会」と記事の筆者は言われていました。「これが最後と思わずに、かけがえのない出会いを楽しみ、もう一度会いたいなと願う気持ち」だとも。これは「がん患者さんの集会」での一言ですが、私はこの言葉に今の新型コロナのパンデミックの中で暮らしている我々、またその一人として、この言葉に共感を覚えました。

私は昨年四月、法人内異動で初めてこの柏の実苑に着任し、早一年が経とうとしています。当苑の利用者だけではないでしょうが、コロナ禍で様々な日常生活に支障や制約があり、苑での活動や行事の中止や縮小等もある中での日常を送っています。もちろん暗い気持ちで活動している訳でも、笑い声や楽しみがない訳ではありませんが、まだ私は、ここの利用者の「本当の力、心からの笑い声、真の笑顔」を見ていない気がします。私もここ柏の実苑に来て、せっかく出会えた彼らとの日常を大切にしたい、そしてもっと多くの笑顔が見たいという思いで「一期多笑」。この言葉を胸にこれからも皆さんと頑張っていければと思っています。新型コロナ感染の早い収束を願いつつ…。

障害児居住施設
瀬野川学園
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある児童の居住する施設です。現在７才から20才までの９名が起居を共にし、基本的生活習慣の自立をめざしています。学齢児は特別支援学校や地域の小中学校へ通い、18才以上の人達は将来の社会的自立をめざしています。

知的障害者居住施設
安芸柏の実苑
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある方の生活居住施設です。現在34才から51才までの男性20名が起居を共にし、農耕・軽作業・洗濯・清掃などの活動を通して社会参加をめざしています。

年頭に思う

瀬野三施設　施設長　中村　毅

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症により当たり前の日常生活が大きく制限される中、利用者・職員のみなさんが元気で新年を迎えることが出来ましたのも皆様の暖かいご支援やご理解があってのことと感謝申し上げます。

昨年の緊急事態宣言が出ている期間は、瀬野川学園の児童におきましては、感染予防のため保護者の理解を得て登校を控えさせて頂くなど緊急の対策をとりました。

その後、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き瀬野三施設では、利用者・職員・ご家族の皆様がワクチン接種を済ませた段階で面会を再開いたしました。久しぶりに会う我が子を前に涙される方もおり、面会を再開する事が出来て本当に良かったと思いました。このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて、面会だけでなく帰省も出来るようになればと願っております。

さて利用者にとって「買い物」は楽しみのひとつですが、コロナ禍のためお店に行って買い物をするのは、まだ先の事になりそうです。そこで昨年は利用者から欲しい商品の希望を聞き、職員が準備して、「瀬野川マーケット（園内売店）」を開きました。利用者のみなさんは生き生きとした目で商品を選んでいました。公共交通機関を利用するのはまだ難しいですが、今年は公用車で実際にお店に買い物に行けるようになればと思います。

またコロナ禍の外出として、観光バスに乗って備北丘陵公園へ「一日バスレク」に行きました。安芸柏の実苑と瀬野柏の実苑の利用者は久しぶりの外出なので広い公園でゆったりと過ごしてもらい、瀬野川学園の子どもたちは、備北丘陵公園はどんな所なのかをあらかじめ調べて、どこで食事をするのか、どんな遊びをするかなど計画を立て、「時間の過ごし方」を学んで、公園では元気よく過ごしました。

私の好きな相田みつをの詩に「あたらしい門出をする者には、新しい道がひらける」とありますが、「年頭に思う」ことは、瀬野キャンパスのこれからです。瀬野川学園の子ども達は、家庭を様々な理由で離れざるを得ず入所に至っていますので、より家庭に近い環境での養育の推進を図ることが必要です。そのためには住環境の整備や職員の支援内容の再考、勤務体制の見直し等が必要となります。また安芸柏の実苑と瀬野柏の実苑の利用者のみなさんにおいては、日中活動として作業をする利用者は志和の福祉ランドで、日常生活の向上を目指している利用者は瀬野三施設で、それぞれどのように取り組んでいくのか改めて考える時がきたと思っております。

今年は寅年です。虎は「千里行って千里帰る」と言われています。虎のごとく目的を持ち、その目的を達成するために、職員と共に研鑽していきたいと思いますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

知的障害者居住施設
瀬野柏の実苑
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある方の生活居住施設です。現在35才から88才までの男女40名が起居を共にし、農耕・軽作業・洗濯・清掃などの活動をしています。また、年齢を考慮した体力維持の活動にも努めています。

障害者生活支援事業
安芸柏の実苑通所部
（所在地）
東広島市志和町大字志和
堀字下十日市山337
TEL（0824）33-5690

知的な発達に障害があり、主にグループホームなどで地域生活をしている20名に、日中活動の場を提供しています。「志和福祉ランド」（東広島市）において、農耕・軽作業・洗濯などの活動を通して、社会参加や自己実現をめざしています。

新年に思う

瀬野柏の実苑　副苑長　**香川　和己**

新年あけましておめでとうございます。

一昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大から約二年。感染予防対策で検温や手洗い・うがい、手指消毒が欠かせない習慣となり、買い物も手短に無意識でレジ前の間隔を取るなど、新しい生活様式の中で日々を過ごしています。コロナ禍で多くの業種や職種でオンラインの導入が進められ、私たちの業種でも研修や会議がオンラインで行われるようになりました。

コロナ禍で変わったもの、私自身「長いこと友達に会ってない。」「バイクで県外に行ってラーメン食べたいけど…」人と直接会って他愛もない事を話したり、旅行に行ったりするなど、生きていく上で必ずしも必要でないようなものが、生きる幅（生きがい）をつくっているんだなと改めて思いました。先の予測のつかない現状の中、生活のつじつま合わせをすることが誰しも難しく、人とのコミュニケーションが難しい利用者さんは、なおさら困惑しています。「長いこと面会できてないよね。」「外出？」「お祭りに行ってない。」様々な自粛の中、いつもの日常が変わってしまった理由をきちんと理解できない（又は理解できても受け入れられない）。丁寧なコミュニケーションが不可欠で「密」を回避すること自体が難しい利用者さんにとって、感染予防と言う観点から、人と関係する場面や意思決定を制約の中で行わざるを得ないなど、私たち以上に生活が制限されることが多いため、とても疲弊しストレスをためているのではないでしょうか。

国の方向性として障害者支援施設利用者の地域移行が言われていますが、この二年間、私たちが勤務する障害者支援施設は地域との交流を無くし、障害者支援施設のおける今の流れをせき止めるような形で、そこで暮らす利用者を守ってきました。新しい生活様式は本来の人間関係からみれば不自然なものだと思います。コロナ禍が落ち着けば一部の良い部分（日頃の感染症対策、オンライン研修等）を残して元の生活に戻るのではないかと思います。入所施設は地域にとって必要不可欠な社会資源で、入所施設で暮らす人たちにとって施設で暮らしていても地域で暮らしていると実感できるような支援をしていかなければと、コロナ禍で地域とのかかわりが希薄になっている今、強く思います。

先般受けた研修の中で講師が言われていたエールが印象に残っています。あともう少し「がんばれ生活支援員」「がんばれ障害者支援施設」

地域支援事業

相談支援専門員の役割

瀬野川学園相談支援事業所 相談支援専門員　次郎垣内　友成

新年明けましておめでとうございます。昨年も、新型コロナウイルス感染が世界的に大きな脅威をもたらし、新しい生活様式の中でストレスの溜まる一年となりました。今年こそ、以前のような生活に少しでも戻ることできる事を期待しています。

コロナ禍で研修会や講演会がオンラインで行われるようになりましたが、会うことで同じ場の空気を感じる事は必要と感じます。しかしながらネットをうまく活用することは大切だと感じています。

最近は、小学校入学するに向けて「放課後等デイサービス」を利用したいが放課後等デイサービスってどんな支援なの？　どんな事業所があるの？　どのように利用することができるの？　といった相談が多くあります。また学校選択についても、相談を受けています。新しい環境、新しいライフステージに行く時には、本人、家族の負担や不安があると思います。その不安感を少しでも軽減できるように、話を聞きながら、必要な支援を考えて、必要な所を提案し、繋げていきたいと思っています。こんな事がしたい、こんな風になりたいといったポジティブな思いや考えを持ってもらえたら嬉しいです。また、高等部卒業後の進路の相談もあります。日中活動の支援が色々ありますが、それぞれに特色があります。事業所においても一つとして同じ色の事業所はありません。自分の色に合う事業所を探していくお手伝いをしています。なかなか見付からないのが現実ですが、探して続けていく事が大切だと考えています。

今年も相談支援専門員として、ご本人ご家族からたくさん話を聞く場面を作り、様々な情報収集をして、福祉サービスを利用するためだけの計画ではなく、ご本人やご家族の希望や夢を叶えるためのサービス等利用計画（障害児支援利用計画）を作成していく事が私の役割だと思っています。

うんどうかい　みんなであそぼう！　かしわオリンピック

柏学園　坂井　由紀子

柏学園では十一月二日にミニ運動会が行われました。

この日はとてもいい天気で、運動会日和でした。子どもたちは、園庭に出るとみんなが集まっている様子を見て、これから起こることに対して期待した表情をする子、ちょっぴり緊張した表情の子など様々でした。先生たちの出し物が始まり、大きな紙でアンパンマンとバイキンマンの絵描き歌が始まると興味津々で見ていました。口や目を書き忘れていることに子どもが気づき、大きな声で教えてあげるなど子どもたちも参加して楽しむ場面もありました。

開会のあいさつの後、まずリトミックを行いました。みんなで円になり最初は行進です。次に合図を聴いてスタート・ストップが始まりました。最初はストップの合図で止まれない子が多くいましたが、何度も行うと上手に止まることができるようになっていました。

最後はみんなで走りました。子どもたちや先生たちも息切れするほど走りました。体が温まり最後にみんなで〝ラーメン体操〟を踊りました。事前に各クラスで踊っていたので〝あ！　これ知ってる！〟といった表情で踊る子、少し離れた場所からその様子を楽しそうに見ている子など様々に楽しんでいました。

しっかり準備運動をした後は二クラス合同の玉入れ対決を行いました。さくら組ひまわり組対どんぐり組たんぽぽ組での対決でした。玉を一つずつ取って投げる子、たくさん集め持って一気に投げる子、投げずに大事に持っている子など様々でした。三回戦行いました。一回戦目はどんぐり・たんぽぽ組の勝利、二回戦目はさくら・ひまわり組の勝利で、最後の三回戦目は奇跡の引き分けでした！　本当に同時で終わったので、勝ちをみんなで称えてみんなが笑顔で終わることができました。

体を動かしてみんなで楽しむことができ、最後に嬉しそうな表情で首にかけてもらったメダルを見ているお子さんたちを見てとても微笑ましかったです。来年は保護者の方も参加して楽しむことができる事を願っています。

法人球技大会

安芸柏の実苑通所部　木村　靖裕

令和三年十一月四日、法人球技大会が瀬野川運動公園で実施されました。コロナ禍ではありますが、大空の下、密を避け、検温・手指消毒・マスク着用等、しっかりと感染対策をした上での開催となりました。

当日は、朝から天候に恵まれ寒くもなく、まさにスポーツ日和。利用者の皆さんも久しぶりの屋外活動を楽しみにされていたせいか気持ちが高揚した様子で、いつもより笑顔が多く感じられました。

例年では、ソフトボール・パークゴルフ・キックターゲット・ディスゲッターの四種目で交流をしていますが、今年度からソフトボールをティーボールに変える事にしました。と言うのも選手の皆さんの高齢化が進み、怪我の心配が増して来たためです。ティーボールは柔らかいボールとバットを使い、ルールも簡略化され優しくソフトボールを楽しめます。まだ慣れていないため少し戸惑いもありましたが、皆さん楽しそうにプレイされていました。来年はもっと練習を積んでスムーズに出来るように支援していきたいと思います。

今回はハプニングもありました。パークゴルフは会場の都合で急遽プレイが出来なくなり、他の競技に振り分けて参加してもらいました。折角練習を重ねてきた選手の皆さんには申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、しっかり切り替えて他の競技に楽しく参加されていて安心しました。

そしてもう一つ、全ての競技が無事終了し、美味しく昼食を頂いた後すぐ、雨雲が急に広がり激しい降雨となりました。急遽バスの中に避難し待ちましたが中々止まず、皆さん少し体も濡れ体調が心配なため、そのまま解散する事になりました。表彰式もソフトボールの交流試合も出来なかったのは少し残念でしたが、それは来年の楽しみにとっておきます。

利用者の皆さんには、いつもと違う一日を、楽しく元気に過ごして頂けたのではないかと思っています。

年忘れクリスマス会

柏の実苑　髙本　聖也

十二月十八日、安芸区民文化センターで令和三年度の年忘れクリスマス会が行われました。利用者の方、東南ロータリークラブ（ＲＩエコー）の方、広島商業高校の方、総勢七十名以上の方が参加して下さり、賑やかなクリスマス会となりました。

昨年は新型コロナウィルス感染拡大の影響で中止となりましたので、今年度の開催に、皆様期待を膨らませていたようです。

まずは各サークルの出し物でスタートです。緊張されるかと思っていましたが、利用者の方は生き生きとした表情で練習してきたダンスを披露しました。終わった後は、沢山の拍手を頂き、満足感を味わっている様子でした。

ＲＩエコーの方の合唱では、美しい歌声が会場に響き、手拍子をしたり、目を閉じたりと思い思いの聞き方で楽しむ様子が見られました。

広島商業高校の方も合唱を披露して下さいました。フレッシュで若々しい歌声に皆さん元気を頂いたのではないかと思います。

次に「手のひらを太陽に」のダンスを柏の実苑利用者の方全員で披露しました。音楽に合わせて元気よく踊る姿は、職員から見ても圧巻で、会場も盛り上がりました。

最後にサンタクロースの登場です。楽しみにしていたプレゼントを受け取ると、皆さん大変嬉しそうで、マイクを向けると「嬉しい！」「最高です！」と喜びの声が聞かれました。

今年度は、検温や手指消毒、マスクの着用等感染予防対策に配慮しながら過ごして頂きました。又、参加者全員での会食は控え、お客様が帰られた後に、柏の実苑の利用者の方や、職員のみで弁当やケーキを頂きました。食事をしながら、「楽しかったね。」と会話を弾ませており、楽しい時間が過ごせたことが感じ取れ、嬉しく思いました。

これからも、様々な行事を通して色々な方との交流を続け、活気のある苑生活を過ごせるよう、工夫していきたいと思います。

今おもうこと

遊んでいるときに思うこと

柏学園　下谷　明日香

柏学園では色々な設定活動を行っており、感触遊びやリトミック等お子さんによってそれぞれ好きな活動や苦手な活動がありますが、トランポリンやボールプールのあるあそび場で遊ぶことはほとんどのお子さんが好きな活動です。あそび場では、広い空間で走ったり跳んだり等思い切り身体を動かして遊んだり、ブロックや玩具で遊んだりと楽しみ方はそれぞれです。しかし、毎回同じような遊び方になってしまうことが多く、好きな遊びを繰り返すことも楽しいのですが、もっと遊び方を広げて楽しいと思うことを増やしていきたいと思いながら遊んでいます。例えば、追いかけっこでは走るだけでなく、車や電車になりきって走ったり、信号機や遮断機に大人がなってそこで止まってもらったり、途中に物を置いてコースを作ったりということをしています。その他にも、いつもは閉じてある大きな厚マットを使ってすべり台を作ったり、そのマットを縦に置いて壁を作り体当たりで倒したり、トンネルをボールプールの中に入れてみたりすることもありました。考えた遊びがヒットしないこともありますが、いつもは玩具やトランポリンで遊んでいるお子さんが興味を持ってくれたり、楽しい雰囲気を感じて集まって来たりすると、とても嬉しくなると同時に私の原動力にもなっています。遊びのなかで子どもの心と体が育まれていきます。日々お子さんと関わる中で、少しでも楽しい遊びを提供することができるように、他にはどんな遊び方ができるのかなということを考えるようにしています。

究極の幸せ

瀬野柏の実苑　世良　麻菜実

私は瀬野柏の実苑に勤めて九年目になります。しかし、まだまだ未熟でたくさんの事を日々学ばせて頂いていると実感しています。

新人の頃は仕事を覚える事に必死で、流れるように過ぎていく日々に付いて行くのがやっとでした。利用者さんとどのように関わっていけばいいのか悩み、思い通りにいかなかったり、失敗を経験したりしながら少しずつ成長していきました。

今は中堅と呼ばれる立場になり、後輩に教える事やリーダーになって発信していく事で様々な面でこれまで以上に責任を持つ場面が増えてきました。

ある時、「人間の究極の幸せは四つ。人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、そして、人から必要とされること。」という言葉を耳にしました。「愛されること」と「褒められること」はもちろんのこと、「人の役に立つこと」と「人から必要とされること」の大切さはこの施設で働いているからこそ経験できたことだと実感しています。また、利用者さんにも、役に立てたことを実感してもらうことや「あなたがいてくれるだけで、それだけでいい」と思ってもらうことを伝えられるよう支援していきたいと思います。それと同時に、自分自身も利用者さんや共に働く職員の皆さんにとって、そのように思ってもらうことへの喜びを感じながら日々仕事をしていきたいと思います。

受信力！発信力！

瀬野柏の実苑　藤田　嘉子

季節が移り変わり日々寒くなってきていますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

私が仕事をする上で大切にしている事を改めて考えてみました。

まず大切にしている事は「受信力」です。受信力とは、利用者さんが何を思って行動したのか、何が好きなのかを受け取る力の事です。あまり話すのが得意でない方でも、一生懸命職員に伝えようとしてくれます。「もしかしてこういう事ですか？」と伝え、合っていたらとても笑顔で頷いてくれます。もし間違っていても、再度一生懸命伝えてくれます。その思いが伝わった時、私はとても嬉しくなり、また利用者さんも伝えられたと安心した表情を見せてくれます。その瞬間がとても大切で、大好きです。

また、「発信力」も同じように大切にしています。私は上手く伝えるのが少し苦手なのですが、皆さんが日々楽しめるよう発信していきたいと思っています。

最後にもう一つ大切に思っている事があります。それは、日々生活する中で「あー今日は楽しかったなー」と少しでも思ってもらえるように関わることです。そう思ってもらう為にはまず自分が楽しむことも大事だと思っています。楽しい時間を共有できるよう工夫して関わっていきたいと思います。

これからもたくさんの笑顔の花が咲きますようにと願いを込めて、皆さんと楽しんでいきたいです。

マネジメント研修を受講して

柏学園　小田　麻唯奈

先日、外部から先生をお招きして、社会人としてのマナーに関するマネジメント研修を受講しました。今回はコミュニケーション力の向上というテーマで、一日を通して様々な勉強をさせていただきました。

特に印象的だったのは、石になったつもりで、無反応で他者の話を聞く「石のワーク」というロールプレイです。まず私が石の役になった際は、無反応で話を聞くことが意外と難しく、すぐに頷いてしまいそうになりました。また、話しかける役になった際は、反応を引き出すために笑わせようとしたり、話題に困ったりしました。二回目は頷いても良いという条件で再度石になりましたが、「聞いているよ！」というサインを送るために大きく頷いたり、じっと相手の目を見たりしました。

私たち保育士は、子どもたちに全身を使って話しかけコミュニケーションを取ろうとしますが、子どもたちからは返事や頷きといった積極的な反応は返ってこないこともあります。しかし、こちらの顔をじっと見つめてくれるお子さんや、手を握るなどのスキンシップを取ってくれるお子さんの様子を思い返して、それが子どもたちの「聞いているよ！」というサインなのかなと気づくことが出来て嬉しい気持ちになりました。

今回の研修のおかげで、社会人として必要な力を養うだけでなく、子どもたちの反応に改めて注目することができました。今後も子どもたちからのサインを見逃さず、元気に交流を深めて参ります。

瀬野柏の実苑　山野　大

先日、法人のマネジメント研修を受講させて頂きました。今回で三回目となり講師の方から一応最後の講義との事でしたが、毎回新たな発見や気づきがあり、楽しく有意義な受講になっています。

振り返ってみるとたくさんの事を学ばせていただきました。ビジネスマナーや報連相など学んだことが実践できているかセルフチェックをしてみると、以前と比べると実行できていることが増えていることに気づきます。

例えば電話の応対でまずは所属や氏名を丁寧に伝えることで相手の方も丁寧に教えてくれることが増え話もスムースにできるようになったと感じています。

また、来客があった際の対応の仕方では言葉遣いや話し方、案内の仕方など時と場合によっての使い方を学び、様々な場面で役立っています。

利用者の皆さんと話をする際にも、笑顔で話しやすい雰囲気をつくったり、相手の表情や言動を見ることで聞き方を変えたりして、話を理解することができるようになりました。

このように日々の生活の中で活かされていることがたくさんありますが、講師の方が最後に一言、「大事なのはテクニックよりも相手に共感することが大切」だと話をされていました。

この言葉を心に刻み、私自身、相手を思いやる気持ちを大切にして職場でも、家庭でも日々の様々な生活の中で実践していきたいと思います。

ご協力いただいた関係団体

蔵田ファイリング㈱
代表取締役社長　田戸　亨様
広島安芸法人会　瀬野川支部
支部長　水野　修治様
宗盛　幸恵様
仁井谷　ヨイコ様
米川　晃様

編集後記

新しい年を迎え、新たな思いを胸に頑張っていきたいと思っております。本年も、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。